

※ 9人制の項目を抜粋しました。

令和3年度(2021年度) 審判関係資料

JVA審判規則委員会

令和3年2月23日

【資料目次】

- | | |
|---------|---------------------------------|
| P 1～3 | 6人制ルール取り扱い【追加事項&再確認】 |
| P 4 | 6人制審判実技マニュアル【修正資料】 |
| P 5～8 | 9人制ルール取り扱い【追加・訂正事項&再確認】 |
| P 9～11 | 9人制審判実技マニュアル【ルールブックページ番号等の修正資料】 |
| P 12～13 | ビーチバレーボールルール取り扱い【追加事項&再確認】 |
| P 14～16 | ビーチバレーボール審判実技マニュアル【修正資料】 |

2021年度 9人制ルールの取り扱い 【追加事項】

1 試合中断の不当な要求と処置に関する事項

第14条第1項 不当な要求

タイムアウトまたは選手交代の要求で、次のいずれかに該当するものは、不当な要求とする。

- (1) ラリー中、または主審のサービス許可の吹笛と同時か、その後の要求
- (2) 要求する権利のない競技参加者がした要求
- (3) 同じ中断中の2回目の選手交代の要求（インプレー中の選手が負傷等した場合を除く。）
- (4) 規定回数を超えた要求
- (5) 第1サービスと第2サービスの間の要求

(注)

1 1回目の不当な要求は拒否をして、記録用紙に記載する。

- (1) 『サービス許可の吹笛と同時か、その後の要求』は、ラリー終了後に公式記録用紙に記録する。
- (2) 『要求する権利のない競技参加者がした要求』、『同じ中断中の2回目の選手交代要求』、『規定回数を超えた要求』と『第1サービスと第2サービスの間の要求』は、これらの要求があった時点で公式記録用紙に記録する。

※上記のケースで副審が吹笛してしまった場合は、タイムアウトの要求等のケースで選手がベンチに戻ってしまうなど試合を遅らせたと主審が判断した時は試合の遅延とし、特に試合を遅らせずに再開できる時には、遅延としない。

2 2回目の不当な要求（遅延警告）の処置の方法

- (1) 『サービス許可の吹笛と同時か、その後の要求』は、ラリー終了後に処置する。
- (2) 『要求する権利のない競技参加者がした要求』、『同じ中断中の2回目の選手交代要求』、『規定回数を超えた要求』と『第1サービスと第2サービスの間の要求』は、これらの要求があった時点で処置をする。

以上のように不当な要求があった場合、その都度記録員は、公式記録用紙に記録し、副審は、その内容を主審に報告する。

2 ボールアウトに関する事項

第21条 ボールイン・アウト

- 1 ボールは、両アンテナ間でネット上方の許容空間を通過させ相手コートへ送らなければならない。このボールが次の状態になったときは、ボールアウトとする。
 - (1) アンテナ、アンテナ外側のネット、コート外の床面または物体、プレーしていない選手以外の人に触れたとき。
 - (2) ネットの下方をボールが完全に通過したとき。
 - (3) ボールの全体またはその一部でも、許容空間外側のネットの垂直面を完全に通過したとき。ただし、次の第21条2に該当する場合は除く。
- 2 ボールの全体または一部が、許容空間外側のネット垂直面を越えて、相手側のフリーゾーンに行った場合、チームに許された接触回数のなかで、以下の条件のもと、ボールを取り戻すことができる。
 - (1) ボールの全体または一部は、再びコートの同じ側の許容空間外からネット垂直面を越えて取り戻すこと。
 - (2) 選手は相手側のフリーゾーン内でプレーすること。

(注)

- 1 許容空間外のボールの取り戻しが可能となった事により、副審の位置取りが重要となる。

「ボールを取り戻すケースで許容空間内に返球された時の位置取りは、基本的にはボールの後か記録席の前とするが、プレーヤーの邪魔にならなければボールのコースに入って判定をする。」

プレーヤーはネットの下から相手方空間に侵入しても反則とはならない。ただし、相手方プレーへの妨害があると判断したらインターフェアの反則とするため、反則のあった瞬間に、吹笛することが大切である。また、取り戻しのプレーで相手コート内に侵入し、相手側のフリーゾーンへ行った場合は、インターフェアの反則とする。
- 2 インプレー中の選手の長い髪の毛がボールに触れても、ヒット（ボールへの接触）と判断しない。したがって、相手のアタックヒットがブロックやレシーブ時に長い髪の毛に触れてもワンタッチと判定しない。また、ラリー中に起こる同様のケースも許容回数に含めない。

9人制ルール取り扱い 【再確認】

第4条 チーム

第2項 試合への出場

【2014】【2013】

構成メンバー表に記載され公式記録用紙に記載された選手だけが、その試合に出場することができる。試合前に提出されたサービスオーダー票には、先発選手番号がサービス順に、また交代選手番号が示されているが、その試合に出場するためには試合開始時に不在の者を含め、すべての選手番号が記載されている必要がある。したがって、副審は構成メンバー表と提出されたサービスオーダー票をチェックし、記載されていない番号がある場合は監督に確認し記載させる。

(監督が不在の場合は、チームキャプテンに確認し記載させ、サービスオーダー票のサイン欄へのサインもさせる)

第5条 競技参加者の権利と義務

第1項 基本的な権利と義務

【2015】【2014】

- 1 競技場内で「ガム」を噛んだり、帽子をかぶることは許されない。
- 2 監督は、試合終了後、主審・副審にフェアプレーの精神で「握手」を交わす。

第13条 選手交代

第1項 正規の選手交代

【2018】

- 1 交代選手が準備できていない場合は、その要求は拒否され遅延の罰則が適用される。
- 2 複数の選手交代を要求したとき、1組の交代選手が遅れた場合、その遅れた選手交代は拒否される。
- 3 複数の選手交代を要求したとき、組合せの中で不法な選手交代である場合と選手が準備できていない場合は、その交代は拒否され遅延の罰則が適用される。ただし、正しい交代や遅れていない交代は認められる。
- 4 複数の選手交代については、1組目の記録が完了するまでは2組目はサイドライン上には立たせない。
- 5 5回の選手交代を終えた後に、2人以上の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきたとき、副審は監督に1組の選手交代だけが可能であることを伝え、どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ他の選手交代は不当な要求として拒否され、記録用紙に記録される。

「選手交代の手順」

- ①交代選手が、選手交代ゾーンに入ったら、副審が選手交代の吹笛しハンドシグナルを示す。
- ②副審は、ポール付近で選手交代をコントロールする。
- ③副審は、交代選手の方を向き、選手をサイドライン上に止まらせて片方の手を挙げさせる。
- ④副審は、コート内の交代する選手に片方の手を挙げさせる。
- ⑤記録員は、その交代が許可できる組合せであれば片方の手を挙げて副審に合図を送る。
- ⑥許可できない場合は記録員が片方の手を横に振る。
- ⑦副審は、記録員を確認し、選手に手で合図をして交代を許可する。
- ⑧記録員は記録用紙に交代の状況を記入して、手続きが完了したら両手を挙げる。
- ⑨複数の選手交代の場合は、1組ずつ③から⑧の手順を同様に行う。
- ⑩副審は、記録員を確認し、完了を主審に知らせる。

【2017】【2016】

1 選手交代は、同じ中断中に連続して要求することはできず、同じチームによる2つの別々の選手交代の間には、ラリーの終了がなければならない。したがって、同じ中断中に連続して選手交代の要求があった場合は、不当な要求として処置する。

第17条 特殊な事情による試合の中断と処置

【2017】【2016】【2015】【2014】【2013】【2012】【2011】【2010】【2009】

- 1 ノーカウントにした後は、同じサーバーの第1サービスで再開をする。(ダブルファウル)
- 2 サービスの吹笛後、サービスが打たれる前に、他のボールや他のコート選手がコートに侵入したときは、片方の手を挙げて止める。(ノーカウントにはしない)
- 3 「ラリー終了」(第12条1、第13条第1項1)とは、どちらかのチームが得点を得る場合をいう。したがって、ノーカウントになった場合等、得点を伴わないときは、選手交代及びタイムアウトの要求はできない。

第20条 ネット付近でのプレー

第3項 タッチネット

【2016】

タッチネットの反則となるのは、両アンテナ間のネット(アンテナを含む)に触れた場合である。

第5項 インターフェア

【2012】

- 1 ネットプレーを予測して、ネットに接近し、身体を前に出したり、手および腕を前に出して、相手のネットプレーを妨害した場合は、反則となる。
- 2 ネットプレーの前に止まっても、ネットプレーを妨害したことが明らかであれば、反則となる。

第27条 不法な行為

【2015】【2014】【2013】

- 1 チームの1回目の軽度の不法な行為があった場合は、第1段階として処置する。第1段階の警告は、チームに対して行い、ゲームキャプテンを呼んで口頭で警告を行う。この警告は1度限りである。記録用紙には記載しない。また、軽度の不法な行為の程度によっては、1回目であっても第2段階から適用される場合がある。
- 2 チームの2回目の軽度の不法な行為については、イエローカードを示し、記録用紙に記載される。主審は、軽度の不法な行為を行った選手を呼び、イエローカードを示し警告する。このイエローカードはチームに対して試合を通して1回だけである。したがって、その後同チームのどの選手でも再度軽度の不法な行為を行った場合は、レッドカードを示し反則とする。

(例)	第1段階	⇒	第2段階				
-----	------	---	------	--	--	--	--

選手	No.5	⇒	No.6	⇒	No.7	⇒	No.8
処置	口頭でチームに警告	⇒	イエローカード		レッドカード		レッドカード

- 3 チームに先にレッドカードの反則が出ているあとに、軽度の不法な行為が同じチームにあった場合は、口頭での警告は行わず、上記の第2段階から始まり処置を行う。

(例)	無作法な行為	⇒	軽度の不法な行為 1回目		軽度の不法な行為 2回目		軽度の不法な行為 3回目
-----	--------	---	-----------------	--	-----------------	--	-----------------

選手	No.5	⇒	No.6	⇒	No.7	⇒	No.8
処置	レッドカード	⇒	イエローカード		レッドカード		レッドカード

- 4 セットの最終ポイント決定後の不法な行為に対する処置はその時点で行い、次のセットに罰則を適用する。

第33条 公式ハンドシグナル

第1項 主審と副審の公式ハンドシグナル

【2018】

- 1 主審がホイッスルした場合、反則をした選手が明らかであれば、選手を示す必要はない。

【2016】

- 1 チームからタイムアウトまたは選手交代の要求があり、副審が吹笛しその要求を受付けた場合、主審はハンドシグナルを示す必要はない。

【2015】

- 1 主審が反則をホイッスルした場合、副審は、ハンドシグナルを追従しない。
- 2 副審が反則をホイッスルした場合、反則の種類、反則した選手の順に、反則したチーム側でハンドシグナルを示し、主審が「サービスを行うチーム」を示した後に、ハンドシグナルを追従する。

● 9人制審判実技マニュアルのルールブックページ番号等の修正箇所

頁	修正後	修正前
各頁	イエローカード レッドカード	黄カード 赤カード
P.1	記録員 ⑤セットが終了したときは、次のセットの開始までに必要事項を正確に記入すること。「公式記録記入法 4. セットが終了したとき（ルールブック <u>P.75</u> ）」	記録員 ⑤セットが終了したときは、次のセットの開始までに必要事項を正確に記入すること。「公式記録記入法 4. セットが終了したとき（ルールブック <u>P.72</u> ）」
P.3	プロトコール 付録(3) ルールブック <u>P.79</u>	プロトコール 付録(3) ルールブック <u>P.77</u>
P.4	試合の遅延 第 26 条 試合の遅延 ルールブック <u>P.48</u>	試合の遅延 第 26 条 試合の遅延 ルールブック <u>P.45</u>
	「遅延行為に対する罰則段階表」第 26 条 第 2 項 第 5 表 _____ 遅延行為に対する罰則において提示すべきカード ①遅延警告は、黄カードでハンドシグナルを示す。 ②遅延反則は、赤カードでハンドシグナルを示す。	「遅延行為に対する罰則段階表」第 26 条 第 2 項 第 5 表 <u>(P.45)</u> 遅延行為に対する罰則において提示すべきカード ①遅延警告は、黄カードでハンドシグナルを示す。 ②遅延反則は、赤カードでハンドシグナルを示す。
	軽度の不法な行為 第 27 条 不法な行為 第 1 項 軽度の不法な行為 ルールブック <u>P.49</u>	軽度の不法な行為 第 27 条 不法な行為 第 1 項 軽度の不法な行為 ルールブック <u>P.46</u>
P.5	不法な行為 【主審】 ②セット開始前およびセット間に生じたいかなる不法な行為も第 27 条第 2 項 _____ に従い罰則が適用される。その罰則は次のセットに適用される。 ③同一試合中、同一競技参加者が不法な行為を繰り返した場合には、第 27 条第 3 項第 6 表 _____ に示されるように、累進的な罰則が適用される。 (それぞれ連続して不法な行為を行った競技参加者は、より重い罰則が適用される。)	不法な行為 【主審】 ②セット開始前およびセット間に生じたいかなる不法な行為も第 27 条第 2 項 <u>(P.46)</u> に従い罰則が適用される。その罰則は次のセットに適用される。 ③同一試合中、同一競技参加者が不法な行為を繰り返した場合には、第 27 条第 3 項第 6 表 <u>(P.47)</u> に示されるように、累進的な罰則が適用される。 (それぞれ連続して不法な行為を行った競技参加者は、より重い罰則が適用される。)
P.6	ハンドシグナル 第 33 条 公式ハンドシグナル ルールブック <u>P.59</u> 第 7 図 審判員の公式ハンドシグナル ルールブック <u>P.61</u> ～	ハンドシグナル 第 33 条 公式ハンドシグナル ルールブック <u>P.56</u> 第 7 図 審判員の公式ハンドシグナル ルールブック <u>P.58</u> ～
P.8	サービス許可 第 29 条 主審	サービス許可 第 29 条 主審

頁	修正後	修正前
	第2項 責務 2 試合中(5) _____ _____ ルールブック P.54	第2項 責務 2 試合中(5) 「主審の責務」 _____ 2 試合中(5) _____ ルールブック P.51
P.9	サービス順の誤りと処理 第23条 サービス 第5項 サービス順の誤りと処置 ルールブック P.45	サービス順の誤りと処理 第23条 サービス 第5項 サービス順の誤りと処置 ルールブック P.42
P.12	インターフェア 第20条 ネット付近でのプレー 第5項 インターフェア ルールブック P.42	インターフェア 第20条 ネット付近でのプレー 第5項 インターフェア ルールブック P.40
P.13	ネット上での同時プレー 第20条 ネット付近でのプレー 第2項 ネット上の同時プレー ルールブック P.40	ネット上での同時プレー 第20条 ネット付近でのプレー 第2項 ネット上の同時プレー ルールブック P.38
	オーバーネット 第20条 ネット付近でのプレー 第4項 オーバーネット ルールブック P.41	オーバーネット 第20条 ネット付近でのプレー 第4項 オーバーネット ルールブック P.39
	オーバーネット ②オーバーネットの判定基準は、ネット上部の白帯のふくらみを越えて相手コート上でボールに触れているかどうかである。ボールに触れる位置がどこであるかが大変重要である。(ルールブック P.41 第3図参照)	オーバーネット ②オーバーネットの判定基準は、ネット上部の白帯のふくらみを越えて相手コート上でボールに触れているかどうかである。ボールに触れる位置がどこであるかが大変重要である。(ルールブック P.38 第3図参照)
P.15	ハンドリング基準 第19条 ボールへの接触 ルールブック P.39~40	ハンドリング基準 第19条 ボールへの接触 ルールブック P.37~38
	オーバーハンド 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング 第4項 ドリブル ルールブック P.39~40	オーバーハンド 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング 第4項 ドリブル ルールブック P.37~38
	アンダーハンド 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング 第4項 ドリブル ルールブック P.39~40	アンダーハンド 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング 第4項 ドリブル ルールブック P.37~38
	トス 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング	トス 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング

頁	修正後	修正前
	第4項 ドリブル ルールブック <u>P.39~40</u>	第4項 ドリブル ルールブック <u>P.37~38</u>
P.16	タッチプレー 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング ルールブック <u>P.39</u>	タッチプレー 第19条 ボールへの接触 第3項 ホールディング ルールブック <u>P.37</u>
P.17	不当な要求 第14条 試合中断の不当な要求 第1項 不当な要求 ルールブック <u>P.39</u>	不当な要求 第14条 試合中断の不当な要求 第1項 不当な要求 ルールブック <u>P.33~34</u>
	物体利用のプレー 第19条 ボールへの接触 第5項 物体利用のプレー ルールブック <u>P.40</u>	物体利用のプレー 第19条 ボールへの接触 第5項 物体利用のプレー ルールブック <u>P.38</u>
P.18	タイムアウト 第10条 試合の中断と再開 第1項 試合の中断 ルールブック <u>P.32</u> 第12条 タイムアウト ルールブック <u>P.33</u>	タイムアウト 第10条 試合の中断と再開 第1項 試合の中断 ルールブック <u>P.30</u> 第12条 タイムアウト ルールブック <u>P.31</u>
P.19	選手交代 第10条 試合の中断と再開 第1項 試合の中断 ルールブック <u>P.32</u> 第13条 選手交代 ルールブック <u>P.33~35</u>	選手交代 第10条 試合の中断と再開 第1項 試合の中断 ルールブック <u>P.30</u> 第13条 選手交代 ルールブック <u>P.31~33</u>
P.20	セット間の手続き 第10条 試合の中断と再開 第1項 試合の中断 ルールブック <u>P.32</u> 第11条 セット間の中断 ルールブック <u>P.32</u> 第13条 選手交代 第2項 セット間の選手交代 ルールブック <u>P.34</u>	セット間の手続き 第10条 試合の中断と再開 第1項 試合の中断 ルールブック <u>P.30</u> 第11条 セット間の中断 ルールブック <u>P.30</u> 第13条 選手交代 第2項 セット間の選手交代 ルールブック <u>P.32</u>
P.21	特殊な事情による中断 第17条 特殊な事情による試合の中断と処置 ルールブック <u>P.37</u>	特殊な事情による中断 第17条 特殊な事情による試合の中断と処置 ルールブック <u>P.35~36</u>
P.22	【公式記録記入法の解説】 付録(2) ルールブック <u>P.70~78</u>	【公式記録記入法の解説】 付録(2) ルールブック <u>P.67~75</u>